

磐・イワへの祈り

平石知良

水は、雨として大地に降りそぐ。大地の上を流れながら、地中に浸透する。地中には、水を遮る物があって、まるで地上の川のように水は地下で遮る物の上を流れる。この遮る物が、岩盤と呼ばれる磐ではないのだろうか。地上の川そのものも、小石や砂の下は岩盤ではないのだろうか。地上の山と谷と同じように、地下にも岩盤の山脈があり岩盤の谷があって、流れを作っている。上から下に流れる水は、岩盤の露頭した場所地表に現われ、川に合流したり、河床からまた地下に浸透したりしているのではないのだろうか。時には、岩盤の割れ目で「毛細管現象」等の空気と水の力学が物理の教科書通りの結果・下から上へ水を押し上げる作用となっている

のではないのだろうか。平足摺岬は、数多くの谷川が走り通年枯れる事の無い水の豊かな半島である。この豊かな水量は、永く保護されてきた森林によるものとされている。しかし、磐座調査の折々に通過する、切り通しの法面に現われた地層の上部一メートル足らずが、木々の繁殖する圃場なのである。日本でも有数の降雨地帯であるこの半島に、降り注がれる多量の雨と森林が根幹で保留する水とを足し合わせたとしても、谷々を駆け下る清冽な流れの量には追いつかない、と感じ続けていたのである。又、山頂近くの小さな泉とか、歯に染みとおる湧き水とかも、高度で言い換えれば森林限界を超えた場所の水については、森林の保水力だけでは説明がつかない。これ

らの、疑問に前述の想像はうまく答える事ができる。一般に、水が大地に浸透して、再び地表に湧き出でてくるのは、二百年から三百年後と言われている。近代私達は、水を汚してしまつた。農薬汚染である。工業汚染である。現在も私達は、水を汚し続けている。今私達が飲んでいる水は、農薬も重工業も無かつた二百年から三百年前に地下水となつた、汚されていない水である。汚された地下水は、同じ時間の経過を経て未来の人たちの生命水となるだろう。その時、水は清潔だろうか。古代より、地球は人々の住みやすい環境でありつづけたわけではなかつた。火山爆発による粉塵やガス、地震による津波の被害、台風や豪雨による浸水、落雷、燎原を焼き尽くす火災等々で汚れた水も地下水となつた。しかし、再び地表に現われた水は、清潔であつた。清潔な水の湧く場所を、見つける事が出来たから今日があるのだろうか。汚れを取り除いたのは、地下水を通す岩盤ではないだろうか。磐が持っているいろいろな物質が反応しあって、私達にとって有害な汚れを取り除く結果になっているの

ではないだろうか。八丈島のメジロを思う。下北半島で売っていた石鯛の稚魚の干物を思う。小さな体とか細い翼のメジロは、もともとは本州の鳥であり八丈島までは飛んでゆけない。八丈島に到達したのは、台風で吹き上げられた一群の中の数羽がその祖先である。その他の固体は、止まる事のできない海に力尽きて落ちて死んでしまった。石鯛の稚魚は、黒潮に浮かぶ藻が幼稚園である。この黒潮が、縦横深さ・何キロメートルという単位で流軸を離れ迷走する。干物になつた稚魚たちは、迷走で下北半島に達したのだろう。捕獲されなければ、切り離された黒潮は冷やされて行く、冷たくなつた海では南の海の魚は、死滅する。私達の祖先は、八丈島のメジロである。清潔な水にたどり着いたから、生きていけたのだ。快適ではないが、新しい環境に適應できたから、生きる事ができたのだ。台風は今年も、大地を襲う。吹き飛ばされて、海中に沈む多くの生命が今年もあるだろう。冷たいあるいは暖かすぎる海で、海流のちよつとした蛇行で失われる生命は膨大な数だろう。鳥、昆虫、魚、

プランクトン、バクテリア。

火山灰で多い尽くされた大地で、清潔な水あるいは快適ではないけれども適応できる水に、たどり着いた私達の祖先は生きる事ができた。たどり着けなかった人々は、死滅した。下北半島の、石鯛の稚魚のように。死が日常の側にある時、清潔な水を生む盤座は生の輝きを与えてくれる厳かな場所なのだという古代人の祈りは、今日まで続いている。盤座の前に立てば「やすらぐ」という思いも、「ほがらか」になるという感情も、心底にたどり着けたという安堵感を私達が受け継いでいる明確な証だろ

う。

八丈島のメジロでありえた幸運。汚してしまった水を、洗い清める力を盤座はもっていると、祈りたい。

未来を、下北半島の石鯛の稚魚にしたくない、だから、水を汚すのを止めると、誓う。